

8-7 スウェーデン・フィンランド

8-7-1 スウェーデン

1. 歴史

スウェーデンの職業教育の歴史は18世紀に遡る。1799年に最初のメカニカル・スクールが設立された。19世紀初めには同種の学校である、テクニカル・スクールが数校設立された。1872年に実施された調査によれば、これらの学校は17校存在し、生徒数は4400人であった。1878年にこれらの学校は、国庫補助金を交付する制度によって、財政的に安定し、1910年にはその数は66校まで拡大した。

最初の農業学校は、1834年に創設され、私立であった。1860年前後に、国家が財政的責任をとって林業学校と酪農学校が開設された。19世紀半ばから、木材、パルプ、紙が主要な輸出産物となり、国家が森林の管理者の養成に乗り出す。酪農は当

時重要産業であり、多量のバターの出輸出によって、この産業は商業的方向へ発展していく。それに対応して酪農学校は女性を訓練する場として組織された。

商業学校は18世紀の終わりから設立されたが、それらは私立で、小規模で短期のものであった。1880年代と1890年代において地方自治体が商業学校の設置に乗り出す。商業学校は20世紀初めには54校あり、大都市のみに設立されたものではなかった。

19世紀に鉄道、電信・電話、郵便、航海などの新しい分野にかかわる職業教育・訓練が国家によって組織された。航海学校は1840年代に設置され、1870年代に電信技手の訓練が、1903年に郵便局の職員の訓練が開始された。

以上に述べてきた学校は、一部を除いてパートタイムの日曜学校と夜学校であった。このような

学校形態の職業訓練は、1890年ごろから地方自治体の関与がより強化されたが、職業的技能に関する必要の増大と若者を職務に従事させる必要の増大に対応させることにそのねらいがあった。スウェーデンの技術や社会の発展につれて、最新の技術への対応が問題となり、国が関与する職業教育・訓練制度が1918年に創設された。農業の分野を除いて、技術、商業、家政の分野の学校は、国によって管理され、財政的に支援された包括的な制度として組織された。この後フルタイムの職業教育・訓練の学校も増加していったが、パートタイムの職業訓練が1960年までは多くを占めた。1960年代に初めてパートタイムの職業訓練をうけている学生数とフルタイムで職業教育・訓練をうけている生徒数がほぼ同じとなり、1971年以降になってフルタイムの形態のそれが上回るようになった。この1971年は、職業プログラムと理論プログラムが、1つの高等学校制度の中に統合された年である。この改革では、職業プログラムはその教育期間が多様で1年のものから4年のものまで存在した。一方、理論プログラムは3年間の教育期間のものが多かった。

スウェーデンの職業教育・訓練に関する制度は、他のヨーロッパの国と比較すると特異な発展の例とみることができる。前述したように初めはイギリスモデル（最小限の国家の関与と技能労働者の供給を市場の動向に任せる）と類似していたが、1930年代初めにはドイツモデル（徒弟契約に基づく、職場での訓練が基本で、一部、理論学習のみ学校形態で行われる）に向かって発展していった。1960年代の終わりからは、フランスモデル（国家に管理された学校形態の職業訓練）に類似したものとなっていった。

2. 現行制度

後期中等教育（Gymnasium）

現在高校職業プログラムの全国共通プログラムは、14あり、①児童・レクリエーション、②建設、③電子工学、④エネルギー、⑤芸術、⑥運輸、⑦ビジネス・経営、⑧手仕事、⑨ホテル・レストラ

ン、⑩工業、⑪食品、⑫メディア、⑬自然資源活用、⑭保健介護、である。高校は、地方自治体（コミューン）が設置主体で、各コミューンには、これらすべてのプログラムをコミューン内の高校に一つ以上設置することが義務づけられている。この全国共通プログラムの他に、個人プログラムや特別プログラム（地域や学校に特殊なプログラム）がある。以上は、コミューンが提供するプログラムであるが、私立の高校で職業プログラムを提供するものがある。私立の職業プログラムは1993年に地方自治体による高校職業プログラムと同様の財政的支援を受けることができるようになり、増加していった。最初はボルボやABBなどの大企業に付設した工業高校のプログラムが評判になり、2008年には高校職業プログラムの生徒全体の約19パーセントが私立の学校に在籍している。これらの職業プログラムの修学期間は3年間で、入学資格としては義務教育を修了していることが要件となる。

高等職業教育

高等職業学校（yrkeshögskolan）は2009年に組織された制度である。この前身は、1990年代に試行的に取り組みされた、資格化された職業教育（Kvalificerad Yrkesutbildning（KY））であり、高校卒業を入学資格とする職業教育・訓練機関であった。これを引き継ぐ形で、高等職業学校は組織された。

この教育機関は、大学や高等教育機関には統合されない、それらと並立した位置に置かれ、労働市場からの労働力需要をうけて、より高度な職業教育を施す教育機関である。この教育機関を管轄している高等職業学校局が、財政的な面でサポートをしており、学生は無償でここでの教育を受けることができる。

成人教育

スウェーデンでは、長く成人教育機関といえば、地方自治体が運営するコンブックス（成人学校）を意味した。2000年以降は、この分野への民間の参入がめざましく、NTI-SKOLANやLERNIA

と呼ばれる民間の運営による、主に通信制の教育機関が登場し、現在ではそれ以外にもさまざまな民間の成人教育組織が設立されている。これらの教育機関は、インターネットによる Web を利用した教育を中心に行っている。

コンブックスには、移民のためのスウェーデン語の入門コース (SFI)、高校の補習教育 (英語、数学、スウェーデン語など) のコースがある。これは教養的な教育ということもできるが、広義の職業教育ともいえよう。これらのコースの他に、①幼稚園の助手、②看護助手などの職業教育・訓練に関するコースがある。これらのコースは1年から半年間の教育期間である。

(横山悦生)

〈参考文献〉

Anders Nilsson "Yrkesutbildningen i Sverige 1850-1910."
(Årsböcker i svensk undervisningshistoria 208)
Föreningen för svensk undervisningshistoria, 2008
